

大人のスクロール劇場

和田英作による舞台美術を楽しむ

◆鹿児島出身の洋画家 和田英作は薔薇や富士山を描いた作品で知られますが、実は演劇の背景画など舞台美術にも関わっていました。



◆『指鬘縁起』は山本有三が1922（大正11）年に発表した戯曲で、1923（大正12）年に東京・帝国劇場で上演された際に和田が舞台美術を手がけました。鹿児島市立美術館にはその下絵が残されています。エキゾチックで色彩豊かな背景画を物語のあらすじや演劇の台詞とともにご紹介いたします。

◆物語の舞台は古代インド。仏教の経典に登場する仏弟子アングリマーラの説話が下地となっています。主人公はバラモンの妻・マヤとバラモンの弟子・アヒンサカ。

*場面描写と台詞は『現代戯曲全集第13巻山本有三』（国民図書、1927年）より抜粋し構成しています。

登場人物は描かれてないけど、台詞などから想像してみてね♪

し まん えん ぎ 指 鬘 縁 起

和田英作《「指鬘縁起」舞台背景の下絵》より

市立美術館HPのキャラクターシッテルちゃんが案内するよ♪





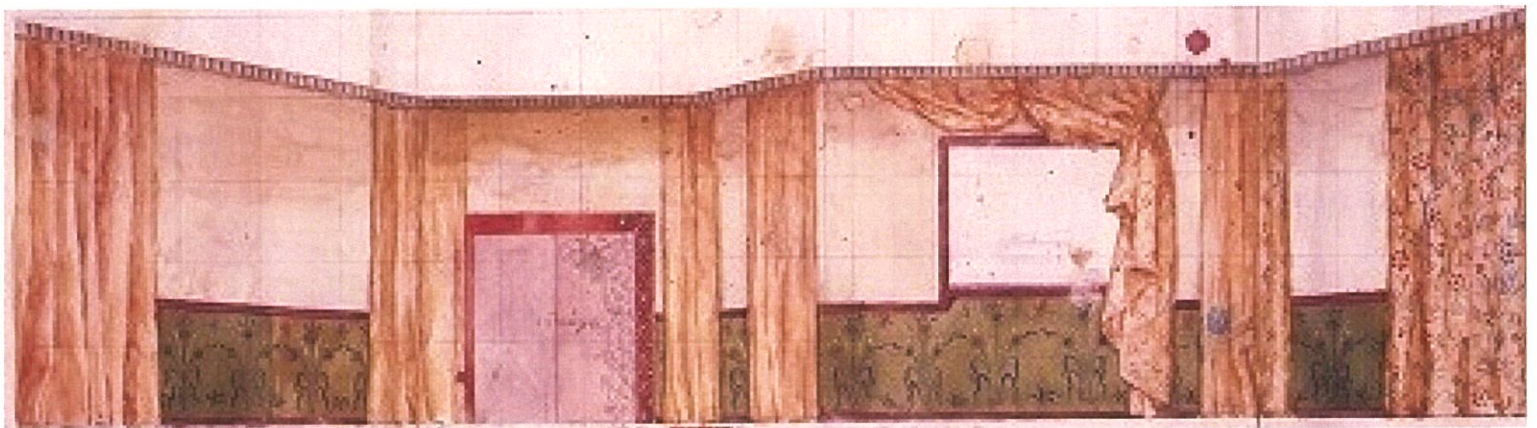
第1幕：室内

古代インドの舎衛城、バラモンの妻マヤの部屋。
建築も調度も華麗を極めている。

夜だけれど部屋のなかは絵のように明るい。

マヤは侍女のグブダに手伝わせながら鏡の前で着替えている。

色づかいや模様が華やか♪
こんなお部屋に住んでみたいな～
ヨーロッパで大人気だったバレエ・
リュス（ロシア・バレエ）の舞台
美術から影響を受けているんだって！



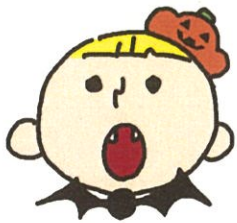
「ねえ、グブダ。人間の指を切って、
それに銀の糸を通して掛けてみたらどうだろう。」

「まあ、奥様？」

「ほほ。それは冗談だけれど、掛けたらきっと綺麗だと思うよ。」

「でも、奥様、人間の指では華鬘*ではなくって、
指鬘になってしまいます。」（*生花で作られた装身具・花環）

バラモンが不在の夜、マヤは夫の弟子で自分の幼馴染でもあったアヒンサカを、急な用があると言って呼び寄せる。
マヤは言葉巧みにアヒンサカを誘惑するも拒絶されてしまう。
怒ったマヤはアヒンサカに濡れ衣を着せ、石窟の牢へ幽閉する。



・・・！！

いきなり不穏な展開！
マヤ、人間の指でネックレスなんて発想怖すぎる！！
アヒンサカは一体どうなっちゃうの！？
ホラーな内容にあわせて、私も去年のハロウィンコスプレ取り出してきたわ。

かなり廃頹している物置のような石窟の内部。
天井が低くて部屋は余り大きくない。

第2幕：洞窟



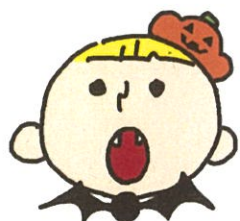
ここに閉じ込められ
ちゃったのね！
ザ・洞窟って感じ。
コウモリが住んで
いそう・・・
アヒンサカ、どうか
逃げ出して！！

石窟に幽閉されたアヒンサカを友人のナラダが助けようとするが、アヒンサカは逃げようとしなない。

実は本心ではマヤを思慕していたのだ。

そこへマヤがやって来る。許しを請おうとするアヒンサカは…

「私は奥さんのためならどんなことでもいたします。」



・・・！！？

まさかの昼ドラ的な展開になってきたわ！
帝国劇場で上演された時は、アヒンサカを二代目市川猿之助が演じたの。
音楽は山田耕筰♪豪華な顔ぶれね！

「それでは、あたくしに指鬘を作って下さらない。
指の華鬘よ。人間の指を切って首飾りを作って戴きたいの。
それをとってきて下さったら、
あたくしあなたのいう通りになりますわ。」

マヤは百人の人間の指で出来た首飾り、指鬘を所望する。

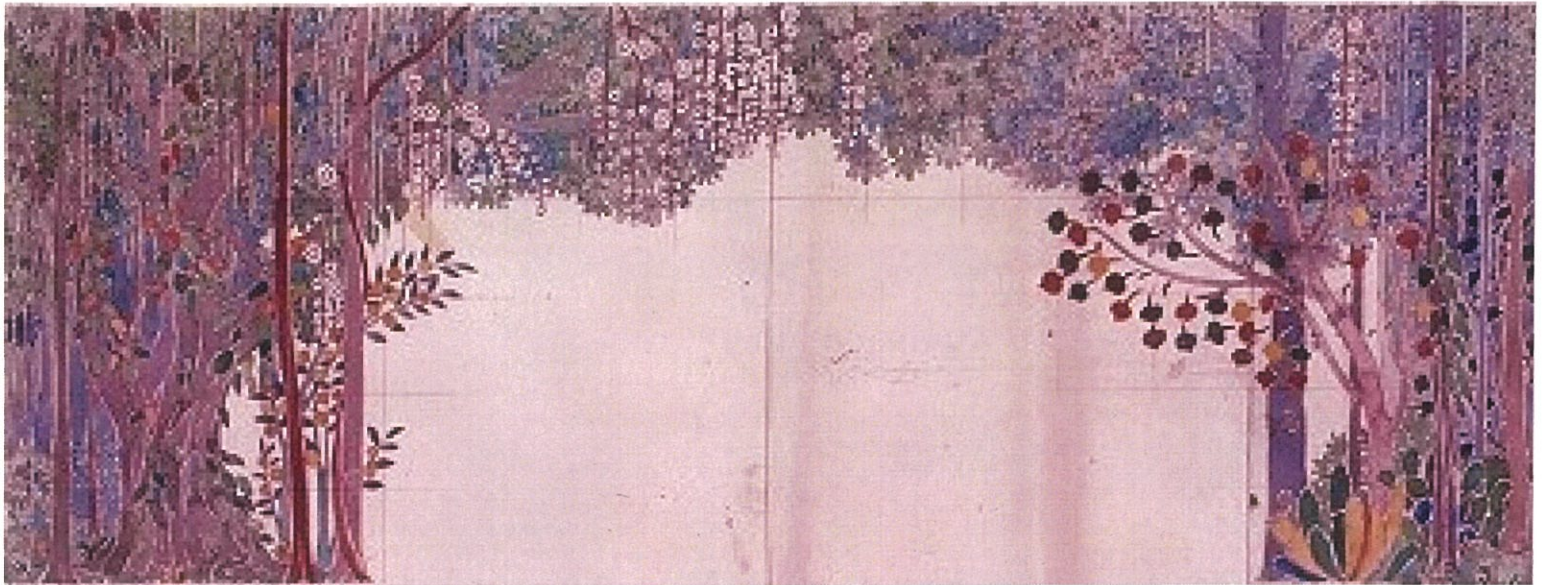
アヒンサカは驚きながらも、マヤのために指鬘を用意すると誓う。

そして牢の番人を切り殺し、石窟を飛び出していく。



・・・！！！！

マヤ・・・（絶句）
アヒンサカ、正気に戻って！
このまま悪の道に突き進んでしまうの？？
怖すぎて寒くなってきた！もうハロウィン通り越して真冬の恰好よ。

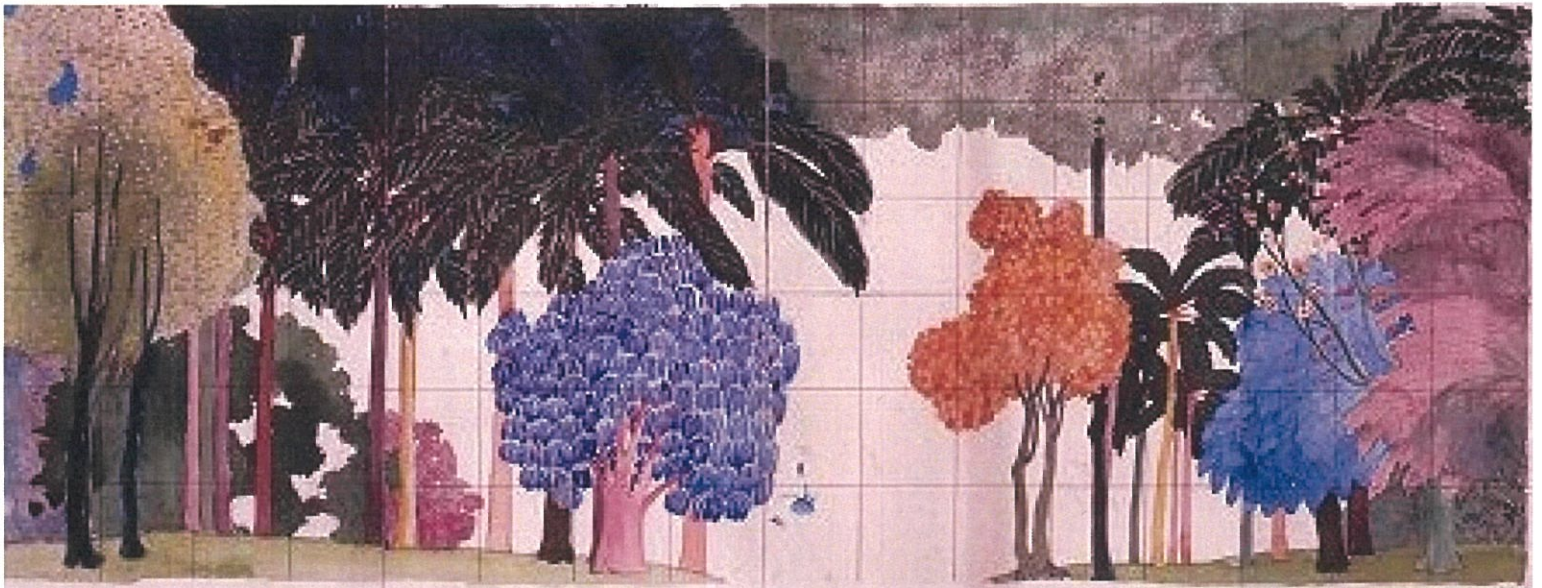


第3幕：密林



うわぁ～、すごいジャングル！背景画の中でも密林の場面が一番多く残されているの。いろんな樹木や花、木の実が描かれてるね。

でも、こんな茂みの中から突然アヒンサカが出没したら怖すぎる！！



舎衛城付近の閻梨加林。林の中に街道が通っている。道の両側は足も踏み込めないほどいっぱい立木と雑草。道端に死体が二つ三つ転がっている。



「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、
六つ、七つ、八つ、九つ、・・・これっぎりかしら。
・・・ええ、こんなもの。
こんなことが出来るものか。駄目だ。」

アヒンサカは狂気にさいなまれながら、指鬘のために密林で
人を斬り続けていた。しかし百人には到底及ばない。



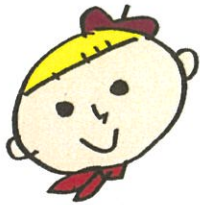
そこへ老僧が通りがかる。

「どうしたのです。」

「駄目だ。助けてくれ。・・・助けて、助けて。」

アヒンサカはうわ言のように「助けてくれ。」と繰り返すばかり。
心配する老僧を振り切って密林の奥へと消えていく。
後にはアヒンサカの悲痛な叫びが密林にこだまするのみであった。

おしまい



えっ！これで終わっちゃうの！？
最後まで救われないお話なのね・・・と、思ったあなた、安心して！！

もともになった経典のお話では、この後アヒンサカはお釈迦様に出会って改心、
仏弟子になるの。出家後はそれまでの過ちを反省しながら自分を取り戻していくわ。
『指鬘縁起』も二部作として続きが構想されていたと考えられているよ。



おしまい
最後まで見てくれて
ありがとう♪



Shieeel?

ちなみに和田英作は1911（明治44）年に開場した
帝国劇場の天井画も描いたの！

演劇など舞台好きだった和田は、『指鬘縁起』を
はじめ様々な舞台美術を手がけたわ。
和田の教え子だった藤田嗣治も手伝っていたのよ。